

全国訪問リハビリテーション振興会
研 修 会 実 施 報 告 書

書類提出日 平成23年 2月 17日

担当者：愛知(山口愼也)・三重(南出光章)・岐阜(北村弘幸)

主催（開催都道府県）	『第1回 東海3県合同 訪問リハビリテーション実務者基礎研修会』 愛知県訪問リハビリテーション連絡協議会 三重県訪問リハビリテーション連絡協議会 岐阜県リハビリテーション連絡協議会
共催・協力団体等	愛知県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会 三重県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会 岐阜県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会
日 時	平成23年2月5日 ～ 2月6日（ 2 日間）
会 場	名古屋第二赤十字病院 研修ホール （〒466-8650 ）
参加者数	総全体参加者数（ 292名） 【内 訳】愛知（PT： 90名、OT： 34名、ST： 14名）（計 138名） 三重（PT： 48名、OT： 14名、ST： 2名）（計 64名） 岐阜（PT： 60名、OT： 19名、ST： 11名）（計 87名） *修了証者は、2日間履修者のみのため上記参加人数と若干異なります。
収 支 予 算	A収入： 1,203,000円（参加費 3,000円） B支出： 740,797円 【内訳】 A： 拠出金(岐阜・三重各10万円+愛知各県士会4万円)+参加費（@3000円×292人+キャンセル料3000円×1名+キャンセル料1000円×4名） B： 支出(講師報酬270,500円+事務費・事業費470,297円) C： 拠出金返金320,000円 D： 残金142,203円（愛知・三重訪問リハビリテーション連絡協議会、岐阜県リハビリテーション連絡協議会へ参加人数率にて按分して返金）
プログラム（内容）	1日目 12:30～13:30 受付 13:30～14:00 開会の挨拶・訪問リハビリスタッフが遵守すべき倫理について 14:00～15:00 訪問リハビリテーションの展望と最新の制度情報について 15:10～16:40 見落としとしてはいけない医学的リスク管理とは 16:50～17:50 緊急時対応法について 17:50～18:00 翌日連絡事項など 2日目 10:00～11:30 利用者・家族との関係作りに必要なコミュニケーションスキル 11:40～12:40 先輩訪問スタッフの実践報告 12:40～13:40 昼休み 13:40～15:00 シンポジウム「連携～訪問リハに求めること～」 15:10～16:10 質疑応答 16:10～16:30 総括 終了証進呈 閉会挨拶
講 師	愛知県訪問リハビリテーション連絡協議会 代表 山口愼也氏 合同会社 gene 代表 張本浩平氏 医)胡蝶会 サンエイクリニック 院長 浅井真嗣氏 訪問看護ステーション太陽・高蔵寺 看護師 丹波ちひろ氏 愛知県臨床心理士会 産業領域担当理事 臨床心理士 三宅美樹氏

	<p>船戸クリニック 理学療法士 北村弘幸氏 ユマニテク医療専門学校 作業療法士 熊谷ちほり氏 柗訪問看護ステーション 言語聴覚士 中橋聖一氏 長久手南クリニック 院長 岩田明氏 すみれ訪問看護ステーション 所長 森田貞子氏 三重県介護支援専門員協会 副会長 倉田 理氏 (株)新生メディカル岐阜営業所 松岡麻千子氏 座長 岐阜県リハビリテーション連絡協議会 代表 柴貴志氏 三重県訪問リハビリテーション連絡協議会 代表 伊藤卓也氏</p>
<p>事業評価 (良かった点)</p>	<p>【愛知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の訪問リハビリに対する意識を知る良い機会となった。 顔の見える関係づくり始まりとなった。 他職種 (医師・看護師など) の訪問リハビリに望む発表は、新鮮なものであった。 3 県合同で開催したことにより、多くの地域リーダーの協力体制が得られ比較的スムーズに開催に至ることができた。 <p>【三重】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回、3 県合同での企画をおこない、より多くの他職種の意見が聞け有意義な研修であったとの意見が多かった。 ネットワーク作りの基礎ができた。 <p>【岐阜】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問リハビリテーションをテーマとした岐阜での研修会は、今まで皆無であったが、今回 POS が一つになって開催が出来た。 県下・各地域のネットワーク化になる初めの一歩が踏み出せた。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各県下で POS が一丸となり、更に 3 県が一丸となり、改めて連携の重要性が認識出来た。 今回のプログラムと講演内容をもとに、応用編のプログラム内容の体系化へと繋がられる。 サービスの需給状況等を調査し、県下へ周知することで、さらなる連携を図っていける。
<p>事業評価 (課題点)</p>	<p>【愛知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例検討・グループワークを要望する参加者が多かった。 コスト考えると、3000 円の参加費は安価？次回以降の事業予算を見直さなければいけない。(・・・愛知県・三重県は、当協議会を士会とは別の組織と位置付けています) <p>※その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の中には、実務者研修会を振興会が開催している管理者研修会に置き換えてほしいという要望があった。(・・・研修会が沢山あり、どれに優先的に参加しなければいけないのか、分からない) <p>【三重】</p> <ul style="list-style-type: none"> 会場が遠方であったため、参加が難しい方がみえた。 各職種間の温度差があった。 <p>【岐阜】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外が会場であったため、会場へのアクセスに難あり。 研修プログラムの体系化を進めていくこと。 pos 間での連携体制の整備を進めていくこと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に向けた連携体制の整備と周知、並びに訪問リハビリ事業の啓発。 ・各事業所以外で研修等定期開催することや、連携を図っている体制が、県下で皆無であることが分かった。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士の親睦・連携が図れる機会がなかった。 <p>(参加者が多く、懇親会等の開催が企画出来なかった。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体でキャパオーバーが約 100 名となり、希望者全てが受講できなかった。 ・振興会からの必須プログラム以外の研修メニューや講演内容を精査する必要があった。 ・行政からも講師を招く事で、より多くの情報提供ができた可能性があった。 ・参加者も多く、事務局の作業負担が多かった。
<p style="text-align: center;">総 括 (コメント等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間での企画・運営の状況下で、全体としては盛り上がった研修会であった。 ・アンケート結果 <p>①非常に有意義 58.7%、まあまあ有意義 32.1%と全体の約 9 割から好評を頂き、次回を期待できる。</p> <p>②平均臨床経験年数（8.78 年）訪問リハビリ経験年数（3.53 年）と経験の浅いセラピストからの参加が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の継続した開催の要望も多く、今後 3 県合同での基礎編を継続して企画開催していく。（開催時期等については、要検討。インフルエンザ・雪等に配慮） ・並行して、各県での応用編を企画開催していく。（訪問リハビリのサービスの質の担保） <p style="padding-left: 2em;">例えば、小規模、実技、グループワーク(困難事例の検討会)、勉強会・分科会他職種（セラピスト以外）も参加出来るように、疾患・職種・エリアごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの作成も検討する（振興会との協議のもと） ・動き出したネットワーク化を、今後も各県・各エリアでじっくりと推進していくことが重要。 ・他業種・地域に向けた啓発活動も行っていく。